

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		コアプラザかの管理運営事業費			担当所属	鹿) 地域政策課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	1 生涯学習の推進		会計種別					
	推進施策	1 生涯学習推進体制の充実		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	来庁者、職員、地域住民							
	意図	コアプラザかの適切な維持管理を行いながら、利用者の増大を図る。							
	成果	住民が主体的で活発な活動ができる環境づくりが進められた。							
	手段	快適な地域の拠点施設となるよう、適切な維持管理に努める。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		利用者数		目標値	人	22000	22000	22000	20000
				実績値	人	11913	15532	17053	-
				目標達成度	%	54.2	70.6	77.5	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		21,911	21,502	20,831	55,888	52,248		
	事業費		15,518	17,899	18,287	53,262	49,622		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	34,400	0		
		受益者負担	147	132	284	309	290		
		その他	1,824	2,192	2,192	2,334	32,353		
	一般財源		13,547	15,575	15,811	16,219	16,979		
	人件費合計		6,393	3,603	2,544	2,626	2,626		
正職員		6,393	3,603	2,544	2,626	2,626			
正職員以外		0	1,622	1,672	2,008	2,831			
(事業費集計済分)		(0)	(1,622)	(1,672)	(2,008)	(2,831)			
人員	正職員 (人)	0.90	0.50	0.35	0.35	0.35			
	正職員以外 (人)	0.00	0.20	0.10	0.10	0.10			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	平成21年2月の供用開始から医療、福祉、保健、生涯学習の拠点施設として、地域住民にも認知されてきた。また、イベント会場として利用されることもあり、親しみやすい施設となっている。								
	現状の周辺環境								
地域の拠点施設として、適正な維持管理に努めている。コロナ禍の影響はなくなり新たな利用も増えたが、地域の人口減少が著しいため利用者数はコロナ前より減少している。									
今後の予想される周辺環境									
利用者の固定化から新規利用者を増やすため、ネット環境の提供など利用しやすい施設を目指す取組みが望まれる。施設の老朽化に伴い、今後、更新費用が必要となる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	事業の目的に則った対象、意図である。					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A						
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	地域の拠点施設となるよう、施設の提供及び適正な維持管理を実施した。					
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	B						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	快適な地域の拠点施設となるよう、引き続き、適正な維持管理に努める。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B						
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	B	コロナ禍の影響はなくなり新たな利用もあったが、地域の極端な人口減と超高齢化により利用が少なかったため目標を下回った。							
改革案	今後の実施方向性	維持	利用率向上のため、各種団体や個人と連携し、体験会の実施や教室などの開催に努め、周知を図っていく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)		施設の利用者が増える。						

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		鹿野総合支所管理運営事業費			担当所属	鹿) 地域政策課			
基本情報	分野	7 生活基盤		事業期間	～				
	基本施策	3 都市拠点等の形成		会計種別					
	推進施策	2 地域都市拠点や生活拠点の維持		実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	来庁者、職員、地域住民							
	意図	鹿野総合支所庁舎を利用する市民や職員の安全性及び利便性を確保し、総合的な行政サービスを提供する。							
	成果	住民にとって訪れやすく利用しやすい行政窓口が運営された。新庁舎完成により、庁舎の利用者の安全性、利便性が向上した。							
	手段	鹿野総合支所庁舎の適切な維持管理に努める。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		庁舎業務委託件数		目標値	件	10	10	10	0
				実績値	件	9	9	9	-
				目標達成度	%	90.0	90.0	90.0	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		18,668	18,771	18,133	20,743	13,225		
	事業費		17,247	16,969	15,952	18,492	10,974		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	65	65	63	107	1,247		
		その他	963	1,076	1,126	816	0		
	一般財源		16,219	15,828	14,763	17,569	9,727		
	人件費合計		1,421	1,802	2,181	2,251	2,251		
	正職員		1,421	1,802	2,181	2,251	2,251		
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.20	0.25	0.30	0.30	0.30			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	2市2町の合併により、平成15年4月21日から旧役場庁舎を鹿野総合支所として業務を開始。庁舎が建築後50年以上経過することから、老朽化が著しく進んでいるため、令和5年度から新庁舎建設、令和6年1月に庁舎が完成し、12月に新庁舎への移転、業務を開始した。								
	現状の周辺環境								
庁舎の完成に伴い利用者の安全性、利便性が向上した。									
今後の予想される周辺環境									
庁舎の長寿命化に取組み、計画的な修繕や改修が必要になる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	事業の目的に則った対象、意図である。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		A					
	有効性	4. 計画の実施状況		B	住民サービスの向上に向け、適正な維持管理を実施した。旧庁舎は老朽化などにより安全性や利便性に問題があったが、新庁舎に移転後は安全性や利便性が向上した。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		B					
		6. 上位施策への貢献度		A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	住民サービスの向上に向け、引き続き適正な維持管理に努める。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A		庁舎を適切に維持管理することで市民、職員の利便性の向上に努めている。						
改革案	今後の実施方向性	維持		地域住民にとって訪れやすく利用しやすい行政サービスが提供できるよう、引き続き施設の適切な維持管理を行う。					
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
適正な維持管理を行うことで、地域住民に安心・安全を提供することができる。令和7年度より、活動指標を「適正施設管理指数」に変更									

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		鹿野総合支所整備事業費			担当所属	鹿) 地域政策課			
基本情報	分野	9 都市経営		事業期間	令和4年度 ~ 令和6年度				
	基本施策	3 効率的かつ効果的な行政マネジメントの推進		会計種別					
	推進施策	5 公共施設等のマネジメントの推進		実施計画	該当	総合戦略	該当		
事業概要	対象	来庁者、職員、地域住民							
	意図	老朽化した鹿野総合支所を新築整備する。							
	成果	住民の安心・安全度が増し、効率的な行政運営が図られる。							
	手段	関係課と連携して迅速な進捗に努める。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		進捗率		目標値	%	15.8	76.4	5.8	0
				実績値	%	15.8	76.4	5.8	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		19,372	90,046	126,069	602,200	0		
	事業費		15,820	86,443	122,434	598,448	0		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	2,800	41,600	53,200	211,200	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	13,000	42,000	44,200	350,000	0		
	一般財源		20	2,843	25,034	37,248	0		
	人件費合計		3,552	3,603	3,635	3,752	0		
	正職員		3,552	3,603	3,635	3,752	0		
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.50	0.50	0.50	0.50	0.00			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	住民の安心・安全な拠点施設を提供するため、老朽化した鹿野総合支所を計画的に建替えをしていくことが必要となる。建替えを実施するため、令和3年度より事業を開始した。								
	現状の周辺環境								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	事業の目的に則った対象、意図である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
3. 事務事業の目標（活動指標等）		A							
有効性	4. 計画の実施状況		A	新庁舎の完成、移転に伴い事業完了。					
	5. 目標（活動指標等）の達成度		A						
	6. 上位施策への貢献度		A						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A						
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	市が関与し、施設整備を行う必要があるため、最適である。					
	9. 類似事業との統合・代替の検討		A						
	10. これまでの実施手段		A						
総合評価	D	新庁舎の完成に伴い事業終了。							
改革案	今後の実施方向性	廃止・休止							
	成果方向性	成果縮小							
	コスト方向性	コスト削減							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		鹿野地域観光交流推進事業費			担当所属	鹿) 地域政策課			
基本情報	分野	6 産業・観光		事業期間	～				
	基本施策	5 観光交流の推進		会計種別					
	推進施策	1 ニューツーリズムの推進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	地域住民、来客者（交流人口）							
	意図	周南市まちづくり総合計画後期基本計画にある「持続可能な中山間地域づくりプロジェクト」の具体的な推進策として、観光を軸としたソフト面の基盤づくりや景観整備を進めることにより、関係人口の拡大や自立した過疎地域を目指す。							
	成果	交流人口や関係人口を拡大することで、地域経済の活性化を図り、持続可能な地域を実現する。							
	手段	観光マップの作成や特産品開発など、ソフト面の支援を行う。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		会議等の開催日数（交流人口の増加を図るための地域住民との勉強会及び連携イベントの開催回数）		目標値	回	12	12	12	12
				実績値	回	12	12	12	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		0	9,687	3,745	4,645	4,719		
	事業費		0	6,805	837	893	967		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	6,000	700	854	967		
	一般財源		0	805	137	39	0		
	人件費合計		0	2,882	2,908	3,752	3,752		
正職員		0	2,882	2,908	3,752	3,752			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員	(人)	0.00	0.40	0.40	0.50	0.50		
	正職員以外	(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境								
	令和3年2月、鹿野総合支所整備方針説明会において、総合支所跡地を観光交流拠点として整備していくこととなり、これを契機に、鹿野地域の観光振興のコンセプトを示し、今後の施策の方向性や観光交流拠点のあるべき姿を描くため、「鹿野地域観光振興プラン」を令和4年3月に策定した。								
	現状の周辺環境								
	地域の夢プランや鹿野地域観光振興プランの具現化を図り、鹿野地域が持つ豊かな自然や歴史・伝統・文化などを最大限活かした観光振興や持続可能な地域社会の実現を目指すため、地域の担い手となる若者で組織する団体が発足され、観光マップの作成、特産品の開発等を行った。								
今後の予想される周辺環境									
自立・持続可能な中山間地域（鹿野地域）の実現につながる。交流人口の増加に伴い、若者等が新たに飲食業などを起業することが、地域の活性化につながる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	B	事業の目的に則った対象、意図である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	地域の担い手となる若者で組織する団体が行う活動を支援した。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	関係人口の拡大や自立した過疎地域を目指すため、引き続き団体に対し、支援をしていく必要がある。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	地域の夢プランや鹿野地域観光振興プランの実現に向け、新たに発足した団体組織による活動により、一定の成果がでている。引き続き、地域の夢プランや鹿野地域観光振興プランの実現のため、支援をしていく。							
改革案	今後の実施方向性	維持	引き続き、自立・持続可能な中山間地域（鹿野地域）の実現につながるよう、事業を進めていく必要がある。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								